

平成24年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	古文書・古記録修復事業			基本目標	図書館の充実			
担当課(局)・係	社会教育課	図書館係	記入者	矢野やす子	評価者	三嶋俊宏	開始年度	S63 年度

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を)	当館に保存してある19,000冊余の高鍋の古文書・日記録および、藩政時代の教科書										
	意図・目的	高鍋の歴史と文化を伝える唯一の資料である貴重古文書古記録を修復保存し、後世に残せるよう管理し、広く町民に供する。										
事業の内容	対象資料一高鍋町有形文化財(諸家文書等) 藩校明倫堂教科書 ①資料解体 ②修理(裏打ち) ③復元(化粧裁ち・製本)											
主な支出項目	23年度決算額	1,506	千円	24年度予算額	1,631	千円	事業従事者数	H23 0.38 人	H24 0.38 人			
	賃金	1,065	千円	国庫支出金		千円	23年度人件費	2,712 千円				
	需用費	441	千円	県支出金		千円	24年度人件費	2,715 千円				
			千円	地方債		千円	24年度予算額における一般財源の割合(H24)		100.0 %			
			千円	一般財源	1,631	千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください					
		千円			千円							
町の補助事業	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助			補助事業名	-							
	補助交付団体	-		補助金要綱	-							
	23年度	補助額	-	千円	補助の形態	-	H24年度補助額	-	千円	終期	-	年度
		団体の決算額	-	千円	H23年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
		補助の割合	-	%								
繰越額		-	千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	1 古文書古記録の修復	資料の保存と管理
	2	
	3	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	1 古文書古記録の修復	66冊 藩校明倫堂の教科書。①資料解体 ②修理(裏打ち) ③復元(化粧裁ち・製本)。
	2	
	3	

◎達成状況

	指標名		単位	22年度	23年度	24年度
				目標値	13,000	13,000
成果指標	古文書古記録の修復	実績値	冊	7,013	7,079	
		達成率	%	53.9%	54.5%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
		目標値				
活動指標	古文書古記録の修復	目標値	冊	60	65	80
		実績値		62	66	
		達成率	%	103.3%	101.5%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			

事務事業名	古文書・古記録修復事業	担当課(局)	社会教育課
-------	-------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	担当者記入欄	評価する項目	点数
			自己評価
(必要性)	高鍋町の歴史を考証する上でもまた文化遺産としても大変貴重な資料である。事実、来館する学者から、これらの文化遺産に対する高鍋町の姿勢に対して賛辞を貰う事が多い。従って研究のためのリピーターは多い。資料の散逸を防ぐこと、また、業者に依頼すると高額な経費が必要になることを考えると、町で管理保存されるべき事業である。更に、資料の劣化が進むことを考えると、資料のデジタル化の必要性がある。	◎目的からして町が行うべきか	2
		◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2
		◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2
		◎事業廃止による影響があるのか	2
有効性	資料の劣化状況を把握しながら事業を進めているが、行使する上で最良の条件が揃っている訳ではないので今後の状況が懸念されるが修復したものについては、劣化の進行はあまり認められないようである。	◎目標に対して成果は得られているか	1
		◎すでに目的は達成されていないか	2
効率性	特殊技術を必要とする事業であるので修復従事者が経験を積むほど種々の効果を発揮する。目標値と実績値に年度によって差が生じるのは、資料の劣化状態等に左右される場合があり、修復従事者の経験と技術に頼るところは大である。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1
		◎費用対効果が十分に認められるか	1
協働性	資料については唯一資料である事と、個人情報等の開示も考慮される部分も考えられるので、慎重に対処したほうが無難と思われる。	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	0
合計(最高18点)			13

※町補助をしている場合のみ記入

(公益性)		◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	
		◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	
		◎町民の理解が得られる事業であるか	
合計(最高4点)			0
その他			

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのよう に事業を進めるべきと考 えているか、等	当町の貴重な文化遺産を保存するため、今後も継続して実施していく必要がある。また、災害時に備えての保管場所を検討する必要がある。	今後の方向性			
			事業の方向性	廃止	縮小	維持
					○	
			コスト			

◎事務事業評価委員の意見等

<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に実施していくことが必要と考える。 ・今のままでは200年もかかるので、方法を検討するべきである。 ・修復すべき古文書等が多すぎてこれまでの対応では間に合わないと思われるが、新たな方策の検討が必要と思われる。 	◎今後の方向性	
	事務事業評価委員会	
	判定	維持
	外部評価委員会	
	判定	